

石炭とともに歩んだ74年の歴史をしのび、西芦別小学校で閉校式典



今年4月から上芦別小学校に統合となる西芦別小学校の閉校式典が平成25年11月24日に行われました。

同校は昭和14年の三井芦別鉱業所開設に伴い、翌年2月に開校。その後、石炭増産とともに児童数が急増し、最盛期の昭和33年には2,500人を超える

道内でも有数の大規模校となりましたが、石炭産業の衰退により児童数が激減。現在は13人となっています。

式典には卒業生など関係者約250人が出席。清澤市長と柿崎秀顕校長が74年の歴史を振り返りながら式辞を述べ、出席者は閉校を惜しんでいました。

2013年芦別市応援大使

ファイターズ武田久、矢貫両選手と稲葉選手が芦別で交流イベント

北海道日本ハムファイターズの2013年芦別市応援大使となった武田久選手と矢貫俊之選手の2人が平成25年11月27日、芦別市を訪れました。

当日両選手は、上芦別小学校を訪問。児童から熱烈な歓迎を受けた後、質問コーナーやキャッチボールを行うなど触れ合いました=写真=。また、夜には総合体育館で小中学生を含む約300人の市民らファンを前



に、質問コーナーやトークショー、ストラックアウトゲームを行うなど、両選手、ファンともにイベントを楽しみました。



平成25年12月1日、日本ハムファイターズの稲葉篤紀選手が芦別小学校を訪れました。

これは、一般社団法人芦別青年会議所が創立60周年記念事業の一

つとして、「子どもたちに夢を与えたい」と同選手に熱心にアプローチして実現したもので、市内の小中学生や市民ら約500人が集まり交流しました。

当日は、稲葉選手が野球少年らを相手にキャッチボールをするなど、「少しの時間でもいいから毎日練習をすること。そうすればきっと上手になる」と話しかけると、子どもたちは目を輝かせて真剣に聞き入っていました。

「市民のど自慢の集い」で歌や踊りを大勢の市民が楽しむ

平成25年12月1日、「歳末たすけあい市民のど自慢の集い」が市民会館で開催されました。

「のど自慢の集い」は、平成21年の第30回開催後一時休止となったものの、平成23年から復活し今年で33回目の開催。当日は、客席がほぼ満

席となる盛況となり、町内会連合会や常磐町婦人会、芦別民謡連合会などの団体や個人が歌や踊りを披露。

また、寸劇「浦島太郎」を演じた市議会議員有志の演技に会場が沸くなど、来場した皆さんは楽しい一日を過ごしていました。



上芦別町の大規模太陽光発電所(メガソーラー)が運転を開始



株式会社神戸物産が、平成25年8月から上芦別町の旧芦別商業高校跡地に建設していた大規模太陽光発電所(メガソーラー)がこのほど完成し、12月4日運転を開始しました。

同発電所は、同社が芦別市と賃貸契約した約5.7㏊の土地に8,640枚の太

陽光パネルを設置。年間187万9,000キロワット、約550世帯分の電力を発電し、北海道電力に売電します。

同日行われた運転開始セレモニーには、同社や工事関係者、清澤市長ら約30人が出席し、芦別での新たなエネルギー供給開始を祝いました。